

第6回学術大会特別講演抄録

インプラント治療の現状, そのbenefitとrisk

渡邊 文彦

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座

現在, 歯科修復治療は大きな変革期を迎えている。その起爆となっているのがインプラント治療と今後来る再生医療である。従来, 欠損修復, 顎口腔系の機能審美再建は残存歯, 顎堤の状態により, 少数歯欠損ならばブリッジ, 多数歯ならば局部床義歯, 全く歯が無くなれば全部床義歯として長年これを行う歯科医師の経験, 主観, 技術によりおこなわれていた。今日, インプラント治療は従来の補綴修復法に代わるものとして一つの選択肢としてまたこれからの歯科治療における救世主としてインプラント治療はその地位を確立してきている。インプラントに関して一昨年, 歯科医師国家試験にもすでに2問出題されており, 特殊な治療では無くなっていることを裏付けている。日本歯科大学新潟生命歯学部では卒前教育として第4学年に口腔インプラント学としてクラウンブリッジ, 局部床義歯学と平行して授業を行っている。補綴, 口腔外科, 解剖, 組織, 病理等の基礎医学と臨床医学の面から共通するキーワードの基で分担して授業が組み立てられている。また第1学年, 3学年で病院体験実習の中にも早い時期にこれらを知ることの重要性から, 第2学年では専門歯科治療概論としても授業を行っている。さらに第4学年終了者に希望によりインプラント埋入, 印象の模型実習を大名っており, 学生の半数以上の学生がこ

れを受講している。この目的はインプラント治療がどのようなものであるかを理解することにある。インプラント治療の成功においてはインプラント器材の確実性とこれを横領する医療従事者の技術にかかっている。

オッセオインテグレートドインプラント治療が行われてからすでに40年余りが立ち, 現在は, 骨移植, 上顎洞底挙上術などの治療術式も加わり, 適応症の拡大, 機能, 審美回復の向上, 更に長期間の安定した予後と治療も高度化してきている。衆知のごとく, 現在は欠損修復に対する患者さんのハードルは非常に高い。患者の希望を十分に理解し, それを実現するNarrative Based Medicineと科学的な根拠に基づいた長期予後Evidence Based Medicineに基づく治療により, 高いQuality of Lifeを達成する治療法が選択されるようになって来ている。今日インプラント治療はHard TissueとSoft Tissueマネジメントにより, 患者さんの口腔内の喪失した顎堤の状態をダイナミックに改善し, 適応症の拡大, より審美的, 長期予後を可能にしている。このためには患者さんを中心に専門的な技術を有する歯科医師, 歯科衛生士, 歯科技工士, 病院を支えるスタッフ歯科医療チームが一丸となって治療にあたる大切となっている。